

# 原発に向き合う美山町から新しい風

原発なしで暮らしたい丹波の会 児玉正人

京都府南丹市美山町は一町で舞鶴市や綾部市に匹敵する広さがあり、大阪市の1.5倍にあたります。ほぼ全域が大飯、高浜原発から30キロ圏に入っていて、過酷事故が起きれば全町避難となります。



美山町は南丹市4町の中で唯一、鉄道も高速道路も、スーパーもコンビニもありません。茅葺き民家が点在する美山は全国に知られるほど美しく、日本の原風景を今に伝えていますが、過疎化の波に洗われて今年4月から小学校が5校から1校になり、高校（昼間定時制の北桑田高校美山分校）も廃校のうわさが絶えません。京都府下唯一の「山村留学制度」で宿舎から美山小学校に通う子どもたち8名を入れても、生徒数は123名（中学生76名）にとどまり、全町4,000人に縮小した人口の高齢化が加速する中、子育て世代とその子どもたちは町の宝です。

この美山には子育て中の若い移住者が数多く移り住んでいます。田舎暮らしを楽しみつつ様々に過疎と向き合っていますが、関西都市部からの移住者だけでなく3.11以降避難してきた関東出身の家族もいて、子どもたちを被曝から守るための活動が始まりました。

今年3月、南丹市園部町の国際交流会館で開催された「小さき声のカノン上映と鎌仲監督講演」に参加した数名の美山在住者が、美山での映画上映を決断し、上映準備会が生まれました。

8月27日、旧鶴ヶ丘小学校を会場に開催する『映画上映と菅野みずえさんのお話し会』の成功に向けて、美山町に5つある地域振興会すべてと南丹市の後援を取り付けたほか、安定ヨウ素剤の配布と実効性ある避難計画を求めて、地元選出議員4名への働きかけを行うための協議も始まっています。

5月29日には、プレ企画として、旧知井小学校で「ミツバチの羽音と地球の回転」上映と菅野みずえさんのお話を聞く会がもたれ、大人25名、子ども8名が参加しました。

若い移住者と地元の（中）高齢者による「なくそう原発美山の会」、若い移住者よりも一世代上で過去に美山に入った旧移住者と「原発なしで暮らしたい丹波の会」が共同して、美山に新しい風が起きようとしています。

チラシはおおい町名田庄の南部にも配布し、県境を越えたつながりを模索することになっています。そして今回の企画には「避難計画を案ずる関西連絡会」も賛同に加わり、チラシに名を連ねています。

若い移住者が集住する地域は、やはり30キロ圏にかかると舞鶴、綾部にもあり、30キロ圏内に散在する移住者も少なくなく、この間、それらの地区から、脱原発に取り組む様々な取り組みや組織が生まれています

再稼働を止めるための各地の裁判闘争も相まって、原発周辺自治体と都市部をつなぐ大きな力が過疎地に育ちつつあります。